

事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	荒川ふるさと文化館管理運営費	部課名	教育委員会事務局社会教育課	課長名	宮腰 肇
		担当者名	小坂 潤矢	内線	3807 - 9234
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	荒川ふるさと文化館管理費45 - 78 - 50 - 01、荒川ふるさと文化館管理運営費（施設改修）45 - 78 - 75 - 01、荒川ふるさと文化館一般運営費45 - 84 - 33 - 01				
事務事業の種類	新規事業（20年度 19年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	10年度	根拠法令等	荒川区立荒川ふるさと文化館条例
終期設定	有	無	年度		
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	文化創造都市[]			
	政策	伝統文化の継承と都市間交流の推進[09]			
	施策	伝統的文化の保存と継承[09-03]			
目的	常設展示や特別展示、文化財の保存・収集・伝統技術関連等の事業、情報提供等を行うための施設維持管理と管理運営を行い、区民の生涯学習の振興並びに荒川区における教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的とする。				
対象者等	区民全般・荒川ふるさと文化館利用者等（共有区分 南千住図書館利用者）				
内容	<p>【所在地】荒川区南千住6-63-1(南千住図書館と併設)【土地面積】2,723.96㎡</p> <p>【建物面積】1,499.89㎡【延床面積】5,720.69㎡(文化館2,584.59㎡、図書館2,686.1㎡)</p> <p>【構造】鉄筋コンクリート地上4階、地下1階</p> <p>【施設内容】地下1階：収蔵庫(261㎡)、視聴覚室(84㎡・45人)、研修室(53㎡・30人)、工作室(59㎡)</p> <p>1階：常設展示室(506㎡)、企画展示室(148㎡)、郷土学習室(84㎡) 2階：調査研究室(40㎡)</p> <p>4階：事務室(282㎡、図書館共用部分含む)</p> <p>【開館時間】午前9時30分～午後5時(入館は4時まで)</p> <p>【休館日】月曜日(月曜が祝日・振替休日の場合は開館、翌日休館)、館内整理日、年末年始(12月29日～1月4日)【入館料】100円(区内在住の障がい者とその介護者・65歳以上・中学生以下は無料)</p> <p>【主な所轄事業】荒川区に係る考古、歴史、民俗等資料の収集及び保存 常設展示及び特別展示事業(企画展等) 資料に係る専門的な調査研究 文化財の保存及び活用 郷土学習のレファレンス(資料紹介や学習アドバイス、団体見学対応等) 教育、学術及び文化の振興に関する事業(各種講座) 伝統技術の保護と育成(あら川が頂職人教室・伝統技術展)</p>				
経過	<p>【工期】建物：平成7年10月19日～10年3月31日、常設展示：平成8年10月1日～10年3月31日</p> <p>【開設】平成10年5月1日(開館時より南千住図書館と一括で施設管理委託)</p> <p>建物建設3,113,381,000円 展示製作委託319,300,000円 外構(駐車場・駐輪場等)167,023,500円</p>				
必要性	入館者数だけで当館の評価をするのは不十分であるが、最も入館者数が多かった開館年を除いた平成11～14年度と15～17年度では、平均入館者数が1.6倍近く増加しており、当館の存在が区民等に根付いてきたといえる。今後区民等来館者に荒川の歴史や文化に関心をもち、より深く理解してもらい、郷土愛を育むための施設運営を行う必要性は高い。				
実施方法	(二部委託) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員)				
	清掃、警備、受付、エレベーター・電気工作物保守等は委託				

		(単位：千円)						
		14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
予算・決算額等の推移	予算額	53,257	53,625	52,470	47,109	49,814	49,259	54,945
	決算額(20年度は見込み)	50,461	49,830	49,728	42,065	45,737	46,284	54,945
	人件費				7,757	7,686	5,978	
	【事務分担量】(%)				90	90	70	
	合計(+)	50,461	49,830	49,728	49,822	53,423	52,262	54,945
	国(特定財源)							
都(特定財源)								
その他(特定財源)	617	861	861	774	957	932	957	
一般財源	49,844	48,969	48,867	49,048	52,466	51,330	53,988	
実績の推移	事項名	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
	文化館利用者数(人)	16,375	22,143	22,499	21,748	22,138	20,451	24,000
	展示室観覧者数(人)	11,774	17,532	17,981	17,180	17,243	15,740	18,000

事務事業分析シート（平成20年度）

No2

節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）		
	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	
予算・決算の内訳	報酬	非常勤職員報酬	12,584	非常勤職員報酬	14,712	非常勤職員報酬	17,298
	共済費	非常勤社会保険料	1,599	非常勤社会保険料	1,692	非常勤社会保険料	1,957
	報償費	保守謝礼（長刀）	0	保守謝礼（長刀）	0	保守謝礼（長刀）	9
	旅費	資料調査旅費	165	資料調査旅費	143	資料調査旅費	227
	光熱水費	電気・水道料金	7,238	電気・水道料金	7,241	電気・水道料金	8,033
	一般需要費	家屋修繕費	479	家屋修繕費・展示室電球	329	家屋修繕費・展示室電球	2,197
		印刷製本（館だより）	840	印刷製本（館だより）	797	印刷製本（館だより）	1,006
	役務費	電話・清掃手数料	201	電話・清掃手数料	236	電話・清掃手数料	254
		郵便料（切手）	133	郵便料（切手）	234	郵便料（切手）	141
	委託料	建物維持管理業務委託	21,880	建物維持管理業務委託	20,459	建物維持管理業務委託	19,661
		保守（常設展示設備）	99	保守（常設展示設備）	99	保守（常設展示設備）	138
	使用・賃借料	複写機賃借料	200	複写機賃借料	173	複写機賃借料	252
	備品購入費	郷土資料購入	320	郷土資料購入	169	郷土資料購入	340
	負担金	研修等参加旅費	0	研修等参加旅費	0	研修等参加旅費	11

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
標	文化館利用者数（人）	21,748	22,138	20,451	24,000	25,000	展示室観覧者＋郷土学習室利用者
	文化館展示室観覧者数（人）	17,180	17,243	15,740	18,000	20,000	展示室観覧者数

問題点・課題	<p>荒川区内外に、荒川ふるさと文化館の魅力を知ってもらうためにも、現在のHP等周知方法について効果的な方法を検討する。 年々増加するレファレンスに対応する体制づくりが必要。 開設後10年経過し、雨漏り、収蔵庫の不具合等修繕への対応の増加。</p>
	<p>（実施 22 区 未実施 区）</p>

問題点・課題の改善策検討	
平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
<p>HPの内容を工夫して文化館の魅力を宣伝する。18年度に協力を開始したつくばエクスプレス主催の夏休みスタンプラリー - を継続して実施し、文化館の宣伝効果を上げる。</p>	<p>HPの利用者への効果と、つくばエクスプレスの沿線情報誌に伝統技術展ほか随時紹介記事の掲載が可能となるため、新規利用者開拓の効果が期待でき来館者増が見込める。</p>
<p>マスコミからのレファレンスが増加の傾向にあり、荒川区内外からのニーズも増えているため、図書館とも協力・調整して適切な対応方法を検討し実施する。</p>	<p>各種のレファレンスへの適切な対応により文化館の宣伝効果が期待できる。</p>
<p>施設の雨漏り等の不具合について、営繕課にも協力を依頼し、早期に原因等を突き止め修繕計画を効率よく実施できるようにする。また電気設備・電気機器等も同様に対応する。</p>	<p>施設の不具合がひどくならないうちに手当てすることにより修繕費の節約が見込める。</p>

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
継続	継続	郷土の歴史や文化に親しむ施設を運営するため必要である。

<p>平成16年度 学芸員の活用について（観光の視点で文化館の有能な学芸員の活用と十分な処遇）</p>

事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	荒川ふるさと文化館事業推進費	部課名	教育委員会事務局社会教育課	課長名	宮 腰 肇
		担当者名	森 翔 平	内線	3807 - 9234
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	荒川ふるさと文化館事業推進費 （45 - 84 - 66 - 01）				
事務事業の種類	新規事業（20年度 19年度）		建設事業		それ以外の継続事業
開始年度	昭和	平成	10年度	根拠	荒川区立荒川ふるさと文化館条例第1・2条
終期設定	有	無	年度	法令等	
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	文化創造都市[]			
	政策	伝統文化の継承と都市間交流の推進[09]			
	施策	伝統的文化の保存と継承[09-03]			
目的	収集・調査した資料、情報を区民に発信し、区民が郷土の歴史、文化に親しみ、理解を深める機会を提供するとともに、多様な学習ニーズに対応する。				
対象者等	区民全般 文化館来館者				
内容	<p>荒川ふるさと文化館の常設展示を補完するとともに、文化財普及・啓発のために下記の事業を行う。</p> <p>企画展...年2回開催。会期2ヶ月間。荒川ふるさと文化館企画展示室においてテーマに基づいた展示を行う。入館料については、通常の100円で実施。平成19年度は、企画展「吉村昭追悼展 彰義隊とあらかわの幕末」「千住で一番 江戸で一番 千住大橋展」を実施。</p> <p>館蔵資料展...年1回開催。会期1～2ヶ月。館が所蔵している文化財や、新たに購入した文化財等テーマを設定し、展示する。</p> <p>子供向け講座...子どもが参加しやすい夏休み等に「職人さんと作ろう」等の体験学習を実施。</p> <p>一般向け講座...「地域史講座」「古文書講座（初級・中級）」等を開催。講師は荒川ふるさと文化館学芸員。「文化財講座」...テーマを設定し、様々な角度から荒川を探る講座。外部講師により実施。</p>				
経過	<p>1 平成18年度事業...企画展2回「あらかわとお野菜 都市とお野菜」「杉田玄白と小塚原の仕置場」特別展「牧野徑太郎コレクション展」館蔵資料展3回「速報荒川の文化財展」他 夏休み子ども博物館、古文書講座、地域史講座（南千住編）</p> <p>2 平成19年度事業...企画展2回「吉村昭氏追悼 彰義隊とあらかわの幕末」「千住で一番 江戸で一番 千住大橋展」館蔵資料展3回「皆川号外コレクション展 昭和編」他 夏休み子ども博物館、古文書講座、地域史講座</p> <p>3 平成20年度事業...企画展2回「皆川号外コレクション展」「日暮里・舎人ライナー展（仮）」館蔵資料展1回「速報 あらかわの文化財展」 夏休み子ども博物館、古文書講座、地域史講座、文化財</p>				
必要性	<p>文化館には、郷土文化の振興と発展及び文化財保護活動に貢献し、さらに多様な学習ニーズに対応してきた実績があり、郷土文化・文化財の資料や各種事業のノウハウを活用するニーズに対応している。今後もさらにニーズが多様化する見込みであるため必要性は大きい。</p> <p>また、「地域史講座」の参加率の高さや「古文書講座」の根強い人気など、区民自らが郷土の歴史を探求するための手法を学ぶ講座の必要性が年々高まっている。</p>				
実施方法	<p>（1直営） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員）</p> <ul style="list-style-type: none"> 企画展は展示具・パネル等製作・賃借資料の輸送等を委託。 館蔵資料展、子供向け講座、一般向けの講座などは直営で実施。 				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
予算額	8,902	7,344	9,098	7,380	8,457	8,675	8,675	
決算額（20年度は見込み）	7,446	6,709	8,723	6,150	6,921	8,077	8,675	
人件費				11,205	11,102	8,967		
【事務分担量】（%）				130	130	105		
合計（+）	7,446	6,709	8,723	17,355	18,023	17,044	8,675	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）	501	501	360	470	513	561	948	
一般財源	6,945	6,208	8,363	16,885	17,510	16,483	7,727	
実績の推移	事項名	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
	企画展	2回開催	2回開催	1回開催	2回開催	2回開催	2回開催	2回開催
	館蔵資料展	3回開催	2回開催	4回開催	5回開催	2回開催	3回開催	1回開催

事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項		主な事項		主な事項	
		金額（千円）		金額（千円）		金額（千円）	
	報償費	企画展講演会謝礼	336	企画展講演会謝礼	419	企画展講演会謝礼	511
	需要費	企画展図録ポスト-	2,654	企画展図録ポスト-	3,502	企画展図録ポスト-	3,274
	役務費	展示品美術梱包輸送	1,070	展示品美術梱包輸送	1,165	展示品美術梱包輸送	1,397
	委託料	展示製作等委託料	2,784	展示製作等委託料	2,840	展示製作等委託料	3,223
	使用・賃借料	展示品賃借・使用料	76	展示品賃借・使用料	151	展示品賃借・使用料	270

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
標	企画展示室稼働率（％）	65	63	70	75	80	企画展示室開館日数 / 文化館開館日数
	各種事業延参加者数（人）	669	608	458	750	1,000	講座・講演会など延参加者数

（問題点・課題）	<p>来館者・参加者の満足度の把握方法の検討。 展示内容の質的レベルを損なわずに、展示準備に伴う職員の負担の軽減を図る工夫の必要性。 子供向け事業の認知度が低い。</p>
他区の実況	（ 実施 22 区 未実施 0 区 ）

問題点・課題の改善策検討	
平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
来館者へのアンケート等を工夫し、その集計結果を基にした質の向上を目指す。	荒川ふるさと文化館の魅力を向上させる事により、来館者の増加が期待できる。
時期を選んだ展示（ の周年等）や、展示期間を長くする等展示準備の効率化を目指すことにより職員の負担を減らす努力をする。	職員の負担を減らすことにより、展示内容の充実を図れる。更に展示期間を長くすることにより来館者の増加が期待できる。
区報J r , ホームページ等により現在実施している子ども向け事業のPRを強化し、周知を図る。	子ども向けの企画を宣伝することにより、保護者にも宣伝になり来館者の増加が期待できる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	継続	郷土の歴史や文化に親しむ講座や展示等を提供する事業として優先度が高い。

議会議決要旨	
--------	--

事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	奥の細道矢立て初めの地 子ども俳句相撲大会	部課名	教育委員会事務局社会教育課	課長名	宮腰 肇
		担当者名	小坂 潤矢	内線	3807 - 9234
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	奥の細道矢立て初めの地 子ども俳句相撲大会 （45 - 84 - 70 - 01）				
事務事業の種類	新規事業（20年度 19年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	19年度	根拠	
終期設定	有	無	年度	法令等	
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	文化創造都市[]			
	政策	伝統文化の継承と都市間交流の推進[09]			
	施策	伝統的文化の保存と継承[09-03]			
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・「俳句」という日本伝統の文化を学びながら、小学生の言語活動の充実を図る。 ・荒川区南千住が松尾芭蕉の「奥の細道」旅立ちの地であることから、むすびの地である大垣市と、小学生の俳句を通じた交流を行い、親交を深める。 				
対象者等	区内外の小学生				
内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 夏休み子ども博物館（夏休み 荒川ふるさと文化館） 小学生を対象とした子ども俳句教室 2 大垣市「子ども俳句教室」（8月22日・23日 大垣市） 前年度子ども俳句相撲大会上位3校から派遣（小学生2人×3校） 3 大垣市「芭蕉蛤塚忌全国俳句大会」（10月19日 大垣市） 区立小中学校に作品募集の情報を提供し、参加を呼びかる 4 文化祭・俳句展示会ジュニア部門募集（展示11月1日・3日 町屋文化センター） 荒川区文化祭で小学生の部を新設、作品募集、選考の上、展示（25点程度） 5 大垣市「第5回東西俳句相撲」（11月9日 大垣市） 文化祭参加者の上位者を派遣（小学生2人×2組） 6 荒川区子ども俳句相撲大会・予選（12月 区内） 区立小学校等から参加者募集 7 荒川区子ども俳句相撲大会（3月20日 南千住） 予選通過選手及び大垣市からの招待選手によるトーナメント 8 荒川区俳句連盟による俳句指導（通年 区内小学校） 社会教育課が連盟と調整し希望する学校に講師を派遣 9 指導者向け講習会 著名な俳人による教員等指導者を対象にした講演会を実施 				
経過	千住大橋鉄橋化80周年記念事業 奥の細道矢立て初めの地「子ども俳句相撲大会」開催 日 時：平成20年3月22日（土） 午後2～4時 会 場：荒川ふるさと文化館地下1階 視聴覚室・研修室 参加費：無料 その他大垣市から子ども6名を招待				
必要性	松尾芭蕉の「奥の細道」において、荒川区は旅立ちの地、大垣市は結びの地として位置づいている。「俳句」という日本伝統の文化を学ぶことによる小学生の言語活動の充実に加え、大垣市と俳句を通じた交流により、将来的に芭蕉及び「奥の細道」を区の観光資源とし、区内外に対して荒川区への関心を喚起するためにも必要である。				
実施方法	（2一部委託） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 観光振興課・児童青少年課・文化交流推進課など関係各課、また地域の諸団体と連携し実施する。				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
予算額						912	1,055	
決算額（20年度は見込み）						912	1,055	
人件費						854		
【事務分担量】（%）						10		
合計（+）	0	0	0	0	0	1,766	1,055	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	0	0	0	0	0	1,766	1,055	
実績の推移	事項名	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度

事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	報償費			大会選者謝礼	105	大会選者謝礼	117
	一般需用費			印刷製本（ポスター等）	206	印刷製本（ポスター等）	495
	役務費			賞状筆耕料	8	賞状筆耕料	38
	委託料			会場設営委託	417	会場設営委託	142
	負担金			招待者参加費	176	招待者参加費	263

指	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
標							

（問題点・課題分析）	<p>荒川ふるさと文化館（社会教育課）の職員のみでは実施は困難であり、より有効な事業として実施するために関係各課の連携が必要である。 荒川区と大垣市の交流に関する事業のため、大垣市との連携が不可欠である。</p>
他区の実況	（ 実施 0 区 未実施 22 区 ）

問題点・課題の改善策検討	
平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
-	推進	俳句という伝統文化を通じて言語活動の充実を図るとともに、奥の細道旅立ちの地を区内外に発信する。

議（要旨）	
-------	--

事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	文化財保護奨励費		部課名	教育委員会事務局社会教育課	課長名	宮腰 肇	担当	岩井 真吾	内線	3807 - 9234
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	文化財保護奨励費（45 - 90 - 40 - 01） 映像記録保存（45 - 90 - 80 - 01）		文化財保護審議会（45 - 90 - 20 - 01）							
事務事業の種類	新規事業	（19年度 18年度）	建設事業		それ以外の継続事業					
開始年度	昭和	平成	47年度	根拠	荒川区文化財保護条例 文化財保護法					
終期設定	有	無	年度	法令等						
実施基準	法令基準内		都基準内	区独自基準	計画区分	計画	非計画			
行政評価事業体系	分野	文化創造都市[]								
	政策	伝統文化の継承と都市間交流の推進[09]								
	施策	伝統的文化の保存と継承[09-03]								
目的	区内に伝えられる有形・無形の文化財を区民全体の財産として、その保存・活用のための必要な措置を講じ、区民の文化的向上に資すると共に郷土文化の振興と発展に貢献する。									
対象者等	区民一般 文化財所有者・保持者・団体 文化財保護審議会委員 文化財保護推進委員 土地開発・建築関係業者									
内容	<p>文化財保護推進委員 文化財の保護と啓発活動をする非常勤職員 区民15名で構成 ・隔月推進委員会の開催 ・区内文化財等の調査活動 ・文化財事業の協力 史跡説明板 設置：年1基 修理：随時（予算の範囲内）（平成20年3月末現在 124基） 文化財保護奨励金等の交付 文化財の保護奨励のため、区登録文化財の所有者、保持者及び団体に予算の範囲内で奨励金を交付。また区指定文化財の緊急修理に対して補助金を予算の範囲内で交付。 文化財保護審議会 教育委員会の諮問に対し、答申する。平成19年度 区登録（7件）・指定（2件）文化財を諮問 年中行事・民俗芸能映像記録保存 平成18年度 山車人形熊坂長範組立て 平成19年度 刷毛職人関根起吉氏の生活誌（未編集） 埋蔵文化財の調査 「文化財保護法」により、区内周知の包蔵地における土木工事の届出に関する事務処理（都へ進達他）、試掘立会い、本格調査の実施に関する調整事務を行う。</p>									
経過	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和47年度 史跡説明板設置開始 ・昭和53年度 文化財調査員(非常勤職員)設置 ・昭和57年度 文化財保護条例施行 ・昭和57年度 文化財保護審議会設置 ・昭和58年度 文化財保護推進員設置 ・昭和60年度 民俗調査開始（～平成9年度） ・平成6年度 年中行事映像記録開始 ・平成10年度 荒川ふるさと文化館開館 ・文化財保護関連事業は荒川ふるさと文化館の担当事務となる ・平成16年度史跡めぐり文化財講座等を事業推進費に移行 ・平成17年度町屋四丁目実揚遺跡A発掘調査(報告書発行) ・平成18年度町屋四丁目実揚遺跡B発掘調査(19年度報告書発行) ・平成19年度町屋四丁目実揚遺跡C発掘調査(報告書発行) 延命院貝塚B発掘調査(報告書20年度発行予定) 町屋四丁目実揚遺跡D発掘調査(報告書20年度発行予定) 									
必要性	荒川区の歴史・文化を知るうえで貴重な有形・無形の文化財を、保護し次代に伝えるため必要である。									
実施方法	(1直営) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員) 文化財保護審議会(文化財登録・指定の場合) 教育委員会事務局内部調査 文化財保護審議会に諮問 審議・部会調査 答申 教育委員会決定 告示									

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
予算額	10,905	7,974	7,670	16,809	9,584	7,147	8,634	
決算額(20年度は見込み)	8,932	5,893	5,705	16,646	7,994	7,147	8,634	
人件費				6,033	5,978			
【事務分担当】(%)				70	70			
合計(+)	8,932	5,893	5,705	22,679	13,972	7,147	8,634	
国(特定財源)	3,755	400	350	500	1,600	1,500	2,000	
都(特定財源)	250	200	175	250	800	750	1,000	
その他(特定財源)	166	57	85	76	75	76	315	
一般財源	4,761	5,236	5,095	21,853	11,497	4,821	5,319	
実績の推移	事項名	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
	文化財保護推進委員会	6回開催	6回開催	6回開催	6回開催	6回開催	6回開催	6回開催
	文化財保護審議会・部会	10回開催	6回開催	6回開催	7回開催	8回開催	8回開催	8回開催
	指定・登録文化財件数	11件	5件	3件	8件	7件	9件	7件
	埋蔵文化財調査支援委託	12件	10件	8件	8件	10(1)件	10(1)件	10(1)件

事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	報酬	審議会委員・推進員	1,817	審議会委員・推進	1,848	審議会委員・推進員	2,211
	報償費	文化財緊急調査謝礼	0	文化財緊急調査謝	26	文化財緊急調査謝礼	26
	旅費	審議会委員旅費	19	審議会委員旅費	45	審議会委員旅費	45
	一般需用費	消耗品・物品修繕	312	消耗品・物品修繕	486	消耗品・物品修繕	509
	役務費	文化財登録書等筆耕	6	文化財登録書等筆	6	文化財登録書等筆耕	11
	委託料	埋蔵文化財調査	3,168	埋蔵文化財調査	4,214	埋蔵文化財調査	3,690
		史跡説明板等設置	152	史跡説明板等設置	462	史跡説明板等設置	620
		映像記録保存	489	映像記録保存	273	映像記録保存	499
	賃借料	トラック借り上げ料	61	トラック借り上げ	37	トラック借り上げ料	61
	交付金	文化財保護奨励金	1,970	文化財保護奨励金	1,885	文化財保護奨励金	2,265

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値(22年度)	
	文化財登録件数(総数)	5件 (238)	5件 (243)	7件 (250)	7件 (257)	5件 (267)	毎年登録する文化財件数(総数)
	文化財指定件数	3件	2件	2件	2件	3件	登録文化財のうち指定文化財とした数

（問題点・分析課題） 登録文化財に諮問する候補については、「寺社調査」「区史編纂」「石造物調査」などで収集した情報から選定しているが、文化館開館後は、展示等事業への対応が主となり、新たな調査のための予算計上も難しいことから、網羅的な調査を行っていない。このため建造物や近代遺産については、東京都の実施している調査の協力調査以上の実態を把握できていない。
平成18年度から、包蔵地内の建築工事の届出が増え、試掘件数が増加しているが、包蔵地内の工事に関する届出の周知がまだ不十分であるので、さらに周知の努力をする。

他区の実況	（実施 22 区 未実施 区）
-------	-----------------

問題点・課題の改善策検討	
平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
文化財保護推進委員に情報提供等の協力を更に依頼し情報収集に努め、実態調査の必要度を決めて調査実績を少しずつ増やす。	提供情報の収集により実態調査の必要度を決め、これにより緊急性のあるものから調査するようになれる。
平成18年度から、包蔵地内の建築工事の届出が増え、試掘等の件数が増加している。各課宛に、「包蔵地内の工事等について」の依頼文を配り周知をさらに徹底する。また、埋蔵文化財のPRをする。	埋蔵文化財への関心が向上し、包蔵地内の工事に関する届出の周知が徹底する。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	推進	区の有形・無形文化財を次代に伝えるため、必要性が高い。

議会議況（要旨）	平成16年4定 平成17年3定	「近代遺産の保存と語り部について」 「明治時代のレンガ塀等の文化財指定について」
----------	--------------------	---

事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	橋本左内墓套堂復元整備事業	部課名	教育委員会事務局社会教育課	課長名	宮腰 肇
		担当者名	小坂 潤矢	内線	3807 - 9234
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	橋本左内墓套堂復元整備事業（45 - 90 - 45 - 01）				
事務事業の種類	新規事業（20年度 19年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	17年度	根拠法令等	荒川区文化財保護条例 文化財保護法
終期設定	有	無	年度		
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	文化創造都市[]			
	政策	伝統文化の継承と都市間交流の推進[09]			
	施策	伝統的文化の保存と継承[09-03]			
目的	「橋本左内の墓旧套堂」を地域の歴史を伝承する文化財として復元し、地域のシンボルとして活用を図る。				
対象者等	一般区民・観光客				
内容	<p>「橋本左内の墓旧套堂」復元整備事業</p> <p>「橋本左内の墓旧套堂」は、小塚原刑場跡（南千住五丁目、区指定史跡）である回向院にあった南千住のシンボリックな建造物であり、平成17年に回向院の境内整備事業で破棄の危機にあったが、保存活用を求める地元住民の署名活動により、区に寄贈されたものである。</p> <p>本事業は、全国的にも著名な歴史上の人物ゆかりの文化財を、南千住をアピールする観光資源として、また町のモニュメントとして保存活用するものである。</p> <p>事業内容は、旧套堂の復元工事事業、活用のための周辺整備事業からなる。周辺整備事業は、観光資源として活用するために、植栽・照明・案内板設置・休憩設備等を設けポケットパークとしての整備を行う（例、荒川総合スポーツセンター西脇）。</p>				
経過	平成17年12月の橋本左内墓旧套堂の寄贈を受けて、平成18年1月、教育委員会内で経費(823万2千円)を確保し、解体工事を実施。荒川ふるさと文化館の仮設施設に保管中。平成19年12月の庁議にて、移設先が荒川ふるさと文化館前に決定。平成20年2月、教育委員会にて荒川区登録文化財に決定。平成20年度中に復元等の業務を行う。				
必要性	「橋本左内の墓旧套堂」は、区民の保存活用の要望が強く、文化財的な価値及び観光資源としての価値が高い。				
実施方法	(2一部委託) (直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員)				

予算・決算額等の推移	(単位：千円)							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
予算額						5,733	30,450	
決算額(20年度は見込み)				8,232		300	30,450	
人件費						2,135		
【事務分担当】(%)						25		
合計(+)	0	0	0	8,232	0	2,435	30,450	
国(特定財源)								
都(特定財源)								
その他(特定財源)								
一般財源	0	0	0	8,232	0	2,435	30,450	
実績の推移	事項名	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度

事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	委託料	/		敷地測量及び照明設備増設等基礎調査委託	300	橋本左内墓套堂復元等業務委託	30,450

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
標							

（問題点・課題 指標分析）	現在、解体保存している状況にあり、地域住民から早急な復元、保存活用が求められている。
他区の実況	（実施区 未実施区）

問題点・課題の改善策検討	
平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
地域の関心が高い現在、復元後も史跡巡り等の住民参加イベントを行い、旧套堂の活用を図っていく。	住民参加のイベントを行い、保存活用を図ることで、文化財保護の意識が高まる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
継続	推進	移設場所が確定したため、年度内の復元完了を目指す。

議（要旨） 会（質問） 質（状況）	
-------------------------	--

事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	江戸伝統技術	部課名	教育委員会事務局社会教育課	課長名	宮腰 肇
		担当者名	岩井真吾	内線	3807 - 9234
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	江戸伝統技術（45 - 90 - 60 - 01）				
事務事業の種類	新規事業（20年度 19年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	55年度	根拠	
終期設定	有	無	年度	法令等	
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	文化創造都市[]			
	政策	伝統文化の継承と都市間交流の推進[09]			
	施策	伝統的文化の保存と継承[09-03]			
目的	江戸時代から受け継がれてきた無形文化財である区内の伝統工芸技術を保存継承し、広く区民に紹介する。伝統工芸技術保持者の記録映画制作、作品の購入、作品展示、実演公開を行い、区民の関心を高め、理解を得るとともに技術保持者の後継者育成の意欲促進を図る。				
対象者等	伝統工芸技術保持者 伝統技術展来場者 職人体験道場参加者 伝統工芸技術記録映画視聴者 文化館展示観覧者 学校職人教室実施校児童				
内容	「あらかわの伝統技術展」区内の伝統技術保持者が一堂に会して、作品の展示・技術の実演・来場者の体験コ-ナ-等を行う。会場 荒川総合スポ-ツセンタ-（平成14年度より）「学校職人教室」区内の伝統工芸技術者が区内小学校に赴き、技術の実演・解説・児童の体験などを行う。区指定無形文化財保持者の伝統工芸技術を記録する映画（「伝統に生きる」）制作。昭和60年より実施。「伝統工芸品購入」区指定無形文化財保持者の作品を購入。原則として記録映画で制作過程を撮影した作品等を購入 「職人体験道場」ふるさと文化館のエントランスを活用し、伝統工芸技術を体験できる教室を実施。				
経過	「あらかわの伝統技術展」昭和55年度より開催。平成19年度第28回（9月7日～9日）シンポジウム実施（9月7日サンパール荒川小ホール）、平成20年度第29回（9月5日～7日）「学校職人教室」昭和59年度より開催。伝統工芸技術記録映画制作。昭和60年より実施。平成18年度：竹中重雄（衣装着人形）、19年度：田中作典（犬張子）累計/43本。「伝統工芸品購入」平成元年より購入。19年度購入品：犬張子、累計/49点。「職人体験道場」平成16年度試行、17年度より本格実施。18年度以降実施継続				
必要性	「あらかわの伝統技術展」伝統工芸技術の素晴らしさを区民に紹介し、理解を深める絶好の機会である。必要性有 「学校職人教室」本区の特色である伝統工芸技術を児童・生徒の豊かな心を育む教材として活用している。必要性有 伝統工芸記録映画制作 映画上映・貸出等により伝統工芸技術の理解を深める有効な手段になっている。必要性有 伝統工芸品購入 伝統工芸技術は、保持者の死亡等で失われることも多く、技術の記録保存として有効である。また工芸品を展示等で紹介することにより技術の理解を深めるのに有効である。必要性有 職人体験道場 「あらかわの伝統技術展」「学校職人教室」の他に、伝統工芸技術の素晴らしさを紹介する機会を増やすために実施。必要性有				
実施方法	（2一部委託） （直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 伝統技術展は荒川区・荒川区教育委員会・荒川区伝統工芸技術保存会・荒川史談会の共催。技術展会場設営及び記録映画制作は委託				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
予算額	14,326	17,310	15,537	15,195	16,728	22,527	18,476	
決算額（20年度は見込み）	16,529	16,323	14,726	12,034	15,438	18,353	18,476	
人件費				5,171	5,124	4,697		
【事務分担量】（%）				60	60	55		
合計（+）	16,529	16,323	14,726	17,205	20,562	23,050	18,476	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）	48	19	9	8	5	5	5	
一般財源	16,481	16,304	14,717	17,197	20,557	23,045	18,471	
実績の推移	事項名	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
	「伝統技術展」入場者数	8,500人	15,000人	21,000人	12,000人	18,000人	17,000人	18,000人
	「学校職人教室」参加校数	23校	22校	22校	22校	22校	23校	23校
	伝統工芸記録映画（）内累計	2本（39）	1本（40）	1本（41）	0本（41）	1本（42）	1本（43）	1本（44）
	工芸品購入（）内累計	2式（44）	1式（45）	1式（46）	1式（47）	1式（48）	1式（49）	1式（50）
	「職人体験道場」（）内実施回数			23人（4回）	40人（5回）	36人（4回）	40人（4回）	40人（4回）

事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予算・決算の内訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
予算・決算の内訳	報償費	伝統技術展・学校職人教室謝礼	2,222	伝統技術展・学校職人教室・シンポジウム講師謝礼	2,522	伝統技術展・学校職人教室謝礼	2,595
	食糧費	技術展当日賄	256	技術展当日賄	304	技術展当日賄	260
	一般需用費	技術展ポスター制作	964	技術展ポスター制作	1,555	技術展ポスター制作	1,273
		技術展ポスター掲示委託	1,218	技術展ポスター掲示委託	1,388	技術展ポスター掲示委託	1,493
		技術展会場設営・映画制作	8,867	技術展会場設営・映画制作・シンポジウム委託	11,180	技術展会場設営・映画制作	10,649
		技術展会場使用料	1,264	技術展会場使用料	1,357	技術展会場使用料	1,806
	伝統工芸品購入	648	伝統工芸品購入	50	伝統工芸品購入	400	

指標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	
標	伝統技術展入場者数	12,000	18,000	17,000	18,000	20,000	概数
	伝統技術展参加職人数	70	75	75	75	75	
	学校職人教室参加校数	22	22	23	23	23	19年度から全小学校参加（23校）
	職人体験道場参加人数	40	36	40	40	40	18年度から「夏休みこども博物館」の中で子ども向け事業として実施

（問題点・課題分析）	<p>伝統技術展 総合スポーツセンターは区内職人が一堂に会することはできるが、区内外からの来場をさらに促進するには交通の便がよい</p> <p>伝統技術の継承には、産業振興の視点が不可欠であり関連部課との連携が不可欠である。</p> <p>学校職人教室は事前学習が不足すると、児童の興味・関心を引きにくく職人との対話も進まないときがある。</p>
他区の実況	<p>（実施 6 区 未実施 区）</p> <p>伝統技術展は、他に文京区・北区・葛飾区・江東区・墨田区・練馬区で実施。学校職人教室は全国で荒川区のみ</p>

問題点・課題の改善策検討		
	平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果
	交通の便が良くない部分は、従来の宣伝のほかに、新聞社、関連ホームページへ積極的に働きかける等の努力をする。更に、荒川ふるさと文化館のエントランスなどで技術展以外に実演・展示の場を確保し伝統工芸にふれる場を提供する等の新たな宣伝機会を工夫する。	区内外への多様な働きかけにより、伝統技術展を広範囲に宣伝し、入場者の増加が期待できる。
	産業振興関連の所管と連絡を密にし、職人を始め伝統技術に関する情報を木目細やかに提供していく。	荒川区の伝統技術に関する情報を広く提供することにより、区内外の人々に伝統技術について広く理解と関心をもってもらえる。
	学校職人教室の事前学習については、学校との連絡調整を十分に図り、さらに効果のある事業としていくための意見交換を実施する。	次代を担う子ども達に伝統技術について興味や関心をもってもらえる。

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
推進	推進	区の伝統工芸技術について感心を高め理解を深めるため、必要性が高い。

況議（要質問状）	
----------	--

事務事業分析シート（平成20年度）

No1

事務事業名	千住大橋鉄橋架橋80周年記念事業	部課名	教育委員会事務局社会教育課	課長名	宮腰 肇
		担当者名	小坂 潤矢	内線	3807 - 9234
事務事業を構成する小事業名及び予算事業コード（20年度）	企画展「千住大橋鉄橋架橋80周年」関連事業（45 - 84 - 90 - 01）				
事務事業の種類	新規事業（20年度 19年度）		建設事業	それ以外の継続事業	
開始年度	昭和	平成	19年度	根拠	
終期設定	有	無	19年度	法令等	
実施基準	法令基準内	都基準内	区独自基準	計画区分	計画 非計画
行政評価事業体系	分野	文化創造都市[]			
	政策	伝統文化の継承と都市間交流の推進[09]			
	施策	伝統的文化の保存と継承[09-03]			
目的	19年度は荒川区指定史跡（18年度指定）千住大橋鉄橋架橋80周年に当たり、400年以上にわたり松尾芭蕉をはじめとする多くの人々の旅立ちを見送った千住大橋の歴史、文化を区内外に広く知らしめ、保存と活用を図ることを目指した。				
対象者等	一般区民・観光客				
内容	千住大橋鉄橋架橋80周年記念事業 企画展「千住で一番 江戸で一番 千住大橋展」平成20年2月9日（土）～3月23日（日） 記念講演会「日光街道・千住大橋 - 木橋からアーチ鋼橋へ - 」平成20年2月16日（土） 屋形船ツアー「深川・隅田川・南千住」平成20年3月1日（土） フォーラム「千住大橋・松尾芭蕉・旅」平成20年3月7日（金） バスツアー千住～黒羽「奥の細道」平成20年3月15日（土）～16日（日） 奥の細道矢立て初めの地 子ども俳句相撲大会 平成20年3月22日（土）				
経過	千住大橋は、徳川家康が文禄3年（1594）に架けた橋として知られている。また江戸の境界の象徴的な橋であり、松尾芭蕉がここから「奥の細道」に旅立ったことでも著名である。教育委員会は、400年以上にわたり江戸・東京の歴史を見つめてきた千住大橋を平成18年度区指定史跡とした。現状の鉄橋としても平成19年で80周年を迎え、近代の構造物としても注目されている。				
必要性	千住大橋は、文化財的価値及び観光資源としての価値が高く、荒川区内において重要な史跡である。80周年記念事業を実施することにより、区内外に対して荒川区への関心を喚起することができた。				
実施方法	（2一部委託）（直営の場合 常勤 非常勤 臨時職員） 観光課・区民課・広報課・ACCなど関係各課等、また地域の諸団体と連携し実施した。				

予算・決算額等の推移	（単位：千円）							
	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	
予算額						1,649		
決算額（20年度は見込み）						1,240		
人件費						2,135		
【事務分担量】（%）						25		
合計（+）	0	0	0	0	0	3,375	0	
国（特定財源）								
都（特定財源）								
その他（特定財源）								
一般財源	0	0	0	0	0	3,375	0	
実績の推移	事項名	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度

事務事業分析シート（平成20年度）

No2

予 算 ・ 決 算 の 内 訳	節・細節	平成18年度（決算）		平成19年度（決算）		平成20年度（予算）	
		主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）	主な事項	金額（千円）
	報償費			討論会等講師謝礼	110		
	職員旅費			職員宿泊旅費	21		
	特別旅費			学芸員宿泊旅費	10		
	一般需用費			消耗品費	116		
	役務費			賞状筆耕委託	8		
	委託料			会場看板製作委託	422		
	使用賃借料			バス・屋形船借り上げ代	379		
	負担金			招待者参加費	176		

指 標	事務事業の成果とする指標名	指標の推移					指標に関する説明
		17年度	18年度	19年度	20年度	目標値 (22年度)	

（問題点・課題分析）	
他区の実況	（ 実施 区 未実施 区 ）

問題点・課題の改善策検討		
	平成21年度以降に取り組む具体的な改善内容	改善により期待する効果

事務事業の分類		分類についての説明・意見等
前年度設定	今年度設定	
継続	見直し	19年度のみの実施事業である。

議 会 要 旨 状	
-----------------------	--